

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	藤井 健吉 (ふじい けんきち) 花王株式会社 研究開発部門 研究戦略・企画部
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	<p>リスク学は学際的な学問であると同時に、強い実学志向性を有します。私は「よきモノづくり」の領域でリスクアセッサーを務め、実務者として化学物質管理・製品安全・サステナビリティの国際課題に対するリスク評価と意思決定に関わってきました。リスク学が求められる実学の現場は多数あり、課題に応じたリスク評価指標の投入、時代に応じた基準値の刷新、国際的なコンセンサス構築など、分野横断的な専門性が求められます。グローバル化した現代社会で複合的なリスク課題を見極め解決するためには、国際連携が必須であり日本のプレゼンスが問われています。</p> <p>日本の諸学会を見渡すと、学際的リスク学を網羅する当学会だからこそ、分野横断的な諸賢が集い、世代を超えて知見を集積する場となり得る良さがあります。理事会を駆動する一員として、学際的協働の場づくりとリスク学高度人材の交流、産学官連携に向け、役割を担っていければと思っております。</p>
② 本学会における活動歴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本リスク学会理事 (国際委員長, 2018～) 2. リスク学事典 編集委員 (全項通読査読担当) および「1-11. SDGs と ESG」、「6-13, 14 工業化学物質のリスク規制(1)/(2)」他執筆 3. レギュラトリーサイエンス Task Group 発起人、第 1 期 (2013-16)、第 2 期 (2016-19)、第 3 期 (2020-22) の共同代表として基準値と規制に関するレギュラトリーサイエンス研究を協働、次期リスク学事典に関する TG の共同代表として次世代事典の可能性について協働 4. 日本学術会議安全工学シンポジウム実行委員 (リスク学会共催) として、「学際的リスク学分野の体系化～リスク学事典 (2019)」、「化学物質管理が創る安全・安心な社会—SAICM2020 (2020-21)」の各 OS セッションを企画 5. 学会年次大会実行委員 (2019, 2021)、および年次大会企画セッション座長／発表「規制ガバナンスの核心-根拠に基づく意思決定プロセスの事例と潮流- (2014)」、「化学物質管理のレギュラトリーサイエンス-実践的研究 (2015)」、「化学物質のリスク評価・管理における多面的な役割-新たなリスク研究の方向性と可能性- (2016)」、「日本水環境学会共同企画セッション水系感染リスク研究の最先端 (2017)」、「化学物質のリスク評価・管理 (2018)」、「化学物質・資源管理 (2019)」、「新型コロナウイルス感染症をめぐるレギュラトリーサイエンス (2020 年度)」、「次期リスク学事典について考える (2021 年度)」他 6. 学会誌「リスク学研究」;「レギュラトリーサイエンス(RS) のもつ解決志向性とリスク学の親和性 ～薬事分野・食品安全分野・化学物質管理分野の事例分析からの示唆～. 2017;27(1).」、「化学物質のリスクを中心としたレギュ

	<p>ラトリーサイエンスの事例解析. 2016;26(1)」、「水中の健康関連微生物リスク研究の歴史的変遷と最先端. 2018;27(2)」、「行政の施策とリスク学の接点. 2020;29(3)」、「企画セッション開催報告 新型コロナウイルス感染症をめぐるレギュラトリーサイエンス. 2021;30(4)」、「ウイルス感染症対策としてのCO2濃度の利用にむけた値の解釈について. 2021;30(4)」、「接触感染経路のリスク制御に向けた新型コロナウイルス除染機序の科学的基盤. 2020;30(1)」、「リスク学事典編纂の現代的意義を振り返る. 2021;30(3)」他</p> <p>7. リスク研究学会奨励賞 (2015)、認定リスクマネージャ</p>
④ 研究歴・職歴等 (100字以内)	<p>北大院医修了、博士(医学)。北大院医助教、花王安全性科学研究所室長を経て現職(戦略企画部部長 (RS 担当))。国際機構 (ILSI, ACSB, ACI,他) で国際課題のリスク評価・ガイダンス作成に従事。</p>

(書式2) 【推薦者用】

① 推薦する候補者名	藤井 健吉氏
② 推薦者の姓名と所属	岸本 充生 大阪大学社会技術共創研究センター長 (ELSI センター)
③ 推薦理由 (400字程度)	<p>藤井氏は温かな語り口と親しみやすい人柄で知られているが、実務家としての行動力・センスと研究者としての高い能力を持ち合わせている。2018年から学会理事として国際委員長を務め、学会代表として日本学術会議安全工学シンポジウムの実行委員としても活躍されている。新型コロナウイルス感染症のパンデミックに際しては環境表面のウイルス除染ガイダンスを迅速にまとめて2020年4月に社会に向けて公表した。</p> <p>リスク研究学会奨励賞を受賞した後は、学会誌や海外英文誌への積極的な投稿、年次大会セッション座長やタスクフォースの発起など当学会での研究活動も幅広い。とりわけ、多くの国際機構においてリスク課題の評価に携わっていることから、リスク学事典の編集委員として見せた鋭い洞察力と国際性、そして、実業界からみたリスク学のあるべき立ち位置を明確に示す能力は特筆される。今後、日本リスク学会を牽引し、リスク学研究の社会実装という一つの目標を達成するキーマンとして、自信をもって理事候補に推薦する。</p>

② 推薦する候補者名	藤井 健吉氏
② 推薦者の姓名と所属	小野 恭子 産業技術総合研究所 安全科学研究部門
③ 推薦理由 (400字程度)	<p>藤井氏は、北海道大学で医学分野の疾患制御研究教育を担った後、2009年より花王株式会社に勤務されています。同社安全性科学研究所にて、消費者製品・化学物質・食品安全の国際規制に対応できるリスクアセッサーとして、リスク評価、および国際ガイドライン作成などを多数実施されてきました。その実務経験</p>

を踏まえて ASEAN 他国際会議での議論を科学的にリードされています。

藤井氏は、レギュラトリーサイエンス (RS) の立場からリスク評価・管理のあり方を追求するアプローチで、本学会 RS タスクグループの共同代表として、年会におけるセッションの企画と口頭発表、学会誌での論文発表に多くの実績があります。2018 年から本学会の理事を務め、国際委員会委員長として海外渉外関係の管掌をされています。またリスク学事典編集委員としても貢献され、氏が事典の全章を通読・査読されたことで、実務家の視点も反映されたバランスの良いリスク学の体系化に至りました。

このように、実践的かつ国際的な視点を併せ持つ産業界の人材として、藤井氏は当学会における貴重な存在です。リスク学の学際的发展のため今後も大きな貢献が期待される藤井氏を、理事として強く推薦いたします。